

大家重夫 編「日本敗戦の代償―神道指令・著作権・戦時加算」

正誤表

● iii頁 終わりから二行目 誤 第一章には、あの戦争で日本は敗戦したが、どの国と戦ったのか を ← 正 第一章には、あの戦争で日本は敗戦したが、どの国と戦ったのかを調べて記述した。 とす	● vi頁 一〇行目 誤 例えば、東支那海とか日支事変」は、かまない を ← 正 例えば、東支那海とか日支事変」は、かまわ^{ない} とする	● 三頁 九行目 誤 ツ（一九四四年五月、無条件降伏） を ← 正 ツ（一九四五年五月、無条件降伏） とする	● 一〇頁 誤 三行目「大統領マクロン」と四行目「一九九九年、日産」の間に次の文章を入れ、四行目にする。 ← 正 二〇二〇年一月、ハッサン・デアブ首相の新政権が発足した。新政権に対しては、イランが応援するイスラム教シーア派の政党ヒズボラが影響力をもつようだ。	● 一九頁 終わりから一一行目 誤 昭和一四年頃、旧姓^{松山}高校（現・愛媛大学） を ← 正 昭和一四年頃、旧制^{松山}高校（現・愛媛大学） とする	● 二七頁 十一行目 誤 （2）最後通牒を発する一九四六年 を ← 正 （2）最後通牒を発する一九四一年 とする	● 三二頁 終わりから七行目 誤 中国もたいした国でないとも思う を ← 正 中国もたいした国ではないとも思う とする
---	--	--	---	---	--	---

●三二頁 終わりから六行目〔注5の五行目〕

誤 「の石碑があった。」と「なお、夫人は」の「なお、」の、次に次の文章を入れ、「夫人は、」に続く。

←

正 東条英機夫人かつ子は、福岡県田川郡川崎町安宅の出身であるが、北九州の当時の小倉市に下宿し、小倉高女（現・福岡県立小倉西高校）に通学、卒業し、日本女子大学国文科に進学した。戦時中、小倉市民は、総理夫人が小倉高女出身であることを誇りにしていた。

●四一頁 三行目

誤 工、一九四一年一月 を

←

正 工、一九四三年一月 とする

●四四頁 終わりから五行目

誤 務めた。 を

←

正 務めた者と述べている。 とする

●四四頁 終わりから五行目

誤 内務省出身の次田大三郎 を

←

正 内務省出身の次田大三郎（一八八三—一九六〇） とする

●四四頁 終わりから四行目

誤 ILOに次田が を

←

正 大正一〇年、ILOの第三回国際労働総会に次田が とする

●一六五頁 八行目

誤 「注5の三行目」「注6」の前の行の「二〇〇頁」の次に次の文章を続ける。

←

正 次田大三郎は、昭和六年二月から昭和二十一年五月まで、貴族院議員（勅選）。昭和三五年九月一日死去。衆議院・参議院編集「議會制度七十年史—貴族院・参議院名鑑」（昭和三五年二月発行）一三五頁。太田健一・岡崎克樹・坂本昇・難波俊成「次田大三郎日記」（山陽新聞社・一九九一年）

●二二六頁終わりから七行目

誤 1、著作権の発生に登録なしに無方式主義をとった。 を

←

正 1、著作権の発生について、登録なしに、著作物の作成と同時に著作権が発生する無方式主義をとった。 とする

●二二二頁 終わりから四行目

誤 メイスン』シリーズ の次に次の文を入れる。

←

正 中西輝政「アメリカ帝国衰亡論・序説」（幻冬舎・二〇一七年）一六一頁は、カナダ人とアメリカ人の微妙な心理関係を推測している。